



労災発生を抑止する技術の 実現可能性を検証

～ 各種作業現場で不安全行動を自動検知し、注意を促します ～

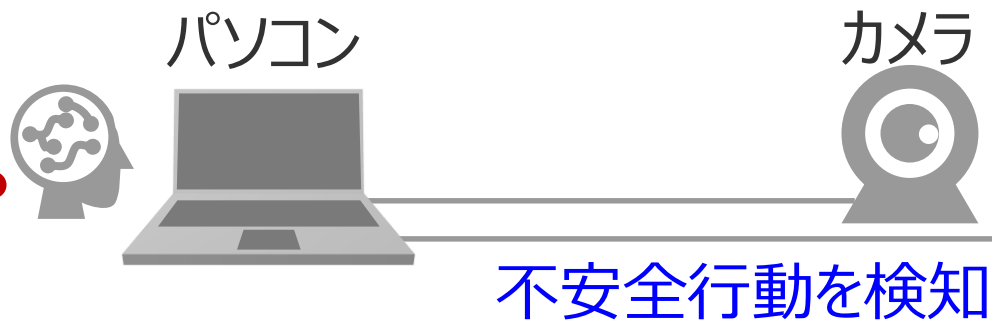
技術開発本部
技術企画室 企画グループ 林

1. 研究の背景と目的

- 安全は最重要課題
- 現場の安全管理は、主に人が担務
- 画像解析技術の進展により、
ヒトの行動解析や物体検出が容易に
- 各種作業時の行動を解析し、不安全行動を検知すると
注意を促すシステムの実現を目指す
- ヒヤリハット事例の多い、階段昇降を対象にシステム構築

2. システムの特長

AIモデルの解析結果から、不安全行動を検知したら注意を促す

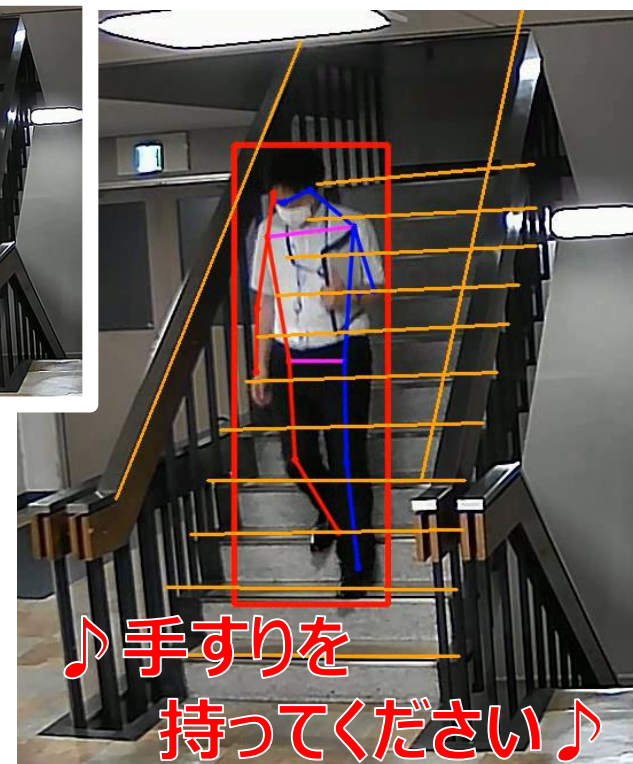
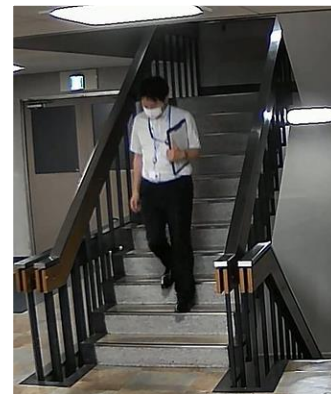


【画像解析】

- ・姿勢や動作の推定
- ・顔向き推定
- ・画像分類（顔の向き：よそ見・正常）

【行動判断（不安全行動検知）】

- ・手すりを持たない
- ・1段ぬかし
- ・よそ見
- ・走る



音などで
お知らせ

 LIGHTBLUE TECHNOLOGY

技術提供：株式会社Lightblue Technologyさま

3. システムの動作例

kaidan number :11
person number : 1
tesuri : warning!!
yosomi : safe
speed : safe
ichidan tobashi : safe

459/1493



ankles22
groin max:9 groin min:7
groin log:deque([9, 9, 8, 8, 7, 7, 7], maxlen=7)



- 不安全行動が規定できる作業の
労災発生抑止技術として活用
- 安全行動の習慣化・定着化、
安全意識の向上への寄与を期待

